

平成 28 年度まちづくり懇談会会議録【加茂地区】

日 時 平成 28 年 11 月 10 日（火） 19：00～20:00
会 場 加茂地区センター
参加者 79人

※「第2次菊川市総合計画について～第1次菊川市総合計画の振り返りと今後9年間の計画～」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談（質疑応答）に入りました。

※会場からのご意見・ご質問

●白岩段 男性

加茂小学校の教室の件でお伺いします。2年前から2クラスが3クラスに増え、これが数年続く傾向です。毎年1クラス増えていくと教室が足りなくなっていくという状況にありまして、4～5年くらい増えていくことが予想されております。そういうことで教室の確保の計画がどのようになっているのかお教えいただければと思います。

○市長から回答

まず、小学校や中学校の件は、今日は教育長も教育文化部長もおりますので、詳しいことは2人から聞けると思います。今、小学校の問題は各地で色々と話題になっていると思いますが、加茂小での今年の1年生は入学人数が非常に多かったみたいですし、この5年間をみると5年後までは今の教室で対応できるけど、6年後からこれからどうなるのかと教育委員会と協議をしております。人口、子どもさんが増えることで教室が不足するとか、あるところでは数が減っているということで、今小学校のことにつきましては教育委員会としても最も重要視している問題であります。今日は教育長も来ておりますのでもう少し、詳しく説明させていただきます。

○教育文化部長から回答

加茂小学校の件ですが、少し数字を交えてご説明させていただきます。加茂小学校につきましては本年度の新1年生を含め、現在14クラスでやらせていただいております。それで実は私どもの方も検討しているところですが、29年度、来年度につきましては14クラスのままでもいいと思っております。その理由の1つとしましては1～2年生の間は35人学級なのですが、3年生になると40人学級になりますのでそこに少し余裕がございます。ただ、ではずっ

と14クラスでいけるかという、31年ごろになると15クラスに増えて、その後徐々に増加していくということになりますので、現在推計を進めているのです。しかし、加茂地区の推計は非常に悩ましいところがありまして、小学校に入るときに例えば今までアパートに住まわれていた方が、ご実家にお帰りになるということで、80人くらいいたときが70人くらいに減ったり、例えば70人くらいしかいなかったのが、小学校入学を機に加茂地区に家を建てて増えたりということもあるので、非常に見通しが立てづらい状況にあります。

ただ、今生まれているお子さんの数を基に将来クラス数がどれくらいになるか検討しているところでありまして、実際に加茂小学校の教室を改造すればなんとか今の18クラスを確保できるのではということも考えております。

ただ、18クラスにするときは特別教室を潰したりすることもありますので果たしてそれでいいのかということも、今年来年あたりで検討していきたいと考えております。それともう1つ加茂小学校の課題といいますか、実は加茂小学校の周りは都市計画の用途が住居系ということで例えば建物の日陰があまり周りに迷惑をかけられないという規制が厳しいところがありまして、高い建物が建てられないという問題があります。そうするとどうしても広い道路に面した方が建てられないということもありますので、そうすると仮に建つのであればどこに建てればいいのかという問題もありますので、そういったことも含めて加茂小学校につきましては担当課として検討しているところでありまして。

ただ、教室が足りなくなってから慌てるということでは非常にまずいことでもありますので、もう少し検討して方向性を出していきたいので、もう少しばらくお待ちいただければと思います。

●白岩下 女性

今こどもが2人いるのですが、3人目と考えたときに年齢が離れると保育園に入っていない状態に3人目の保育料が丸々かかってしまうので、第3子以降の保育料を減らしていただけると大変ありがたいかなと思います。

○市長から回答

実は今まさに話をしております、来年度から多子世帯にどのような支援ができるか話をしております。ただ、具体的に何を支援すれば多子世帯の親御さんに喜んでいただけるかと今、多子世帯については教育委員会と協議しているところでもあります。

○教育文化部長から回答

今市長がほとんど説明していただいたので少し補足させていただければと思うのですが、昨年このまちづくり懇談会で、人口減少のなかで子どもを増やしていこうということで、市長から総合計画という形で説明させていただいたと

ころであります。皆さんにアンケートをとると子どもを3人くらい欲しいという方が結構おります。ただ、実際には3人目までは経済的な負担がありますので、3人目までは生まないということもありますので、できるだけこどもの数を増やすためには、たくさん子どもを生んでもらえるような環境、そのためには経済的な支援が必要ではないかというのが今の市の考えであります。

そういったなかでご質問にありましたように、第3子の保育料の無償化というのは非常に大きな課題になっております。実際、今第3子の保育料につきましては所得に応じた保育料の制度をとっておりますので、所得の低い方は既に第3子の無償化は始まっております。ただそれ以上のところはなかなか進んでいない状況であります。

費用も掛かるので、一度に全部というのは難しいところがあります。今将来的な負担も含めまして検討しているということで、今後答えを出していきたいと考えておりますので、もうしばらくお待ちいただければと思います。

●三軒家 男性

資料を読んで、実質公債費比率が11.8%に下がったということは良いことだと思いますが、先程市長のお話では目標値を設定していくということでした。今菊川は牧之原と並んで最下位です。これを平成37年度にはいくつにしたいのか教えていただきたい。

○企画財政部長から回答

今回の総合計画では100を超える目標を設定しております。ただ財政運営におきましては実質公債費比率を目標値としてあげておりません。実質公債費比率は市が借りている借金の返済、それから借金ではない直接借りている訳ではないのですが、将来こういう風に支出をしますという約束をした、債務負担行為、それから市が経営する公営企業というものがあります。これは菊川病院と水道事業になりますが、それが抱えている借金を市の方から負担する金額、それからもう一つ、他市と一緒に事務をしている一部事務組合というものがあります。例えば環境資源ギャラリーや東遠学園といったところですが、そういったところが借金をして返済しているのに対して市が負担をする金額、そうした金額に対してどの程度市の一般財源の内負担しているのかを表しているのが実質公債費比率であります。それが19%を超えていたのですが、11%台までに落ち着いてまいりました。

今回の総合計画におきましては、実質公債費比率を目標としておりません。もう一つ将来負担比率という比率がありまして、将来負担比率は、将来市が返さなければならない今申し上げた、借入れなどや職員の退職金などの市が将来負担しなければならないものが、市の財政規模のどれくらいあるのかという指

標です。それが平成19年度に148%だったのが平成27年度に49.3%まで下がってきました。これを更に40%までに落とすことを目標としています。

(閉会：20：00)